

制作

農をもっと近くに ～公園的利用に開かれた新しい市民農園の提案～

三堀 響介

園芸学部 緑地環境学科 環境造園学プログラム（主指導教員：武田 史朗）

MITSUBORI Kyosuke

1. 研究の背景と目的

令和 4 年(2022)農林水産省発行の食料・農業・農村白書によると、農業経営体数・基幹的農業従事者数はともに減少傾向にある。また、基幹的農業従事者全体の約 7 割にあたる 86 万人は 65 歳以上となっている。（※1）

つまり、日本では農業経営体数の減少と農業従事者数の高齢化が年々深刻化、すなわち農業離れが進行している。

農業離れが起きている原因の一つとして、「人」と「農」の間に距離が存在することが挙げられると思う。農業が生活から離れた場所で展開されているためにこの問題は進行し続けていると考える。

本研究は、農地に人の生活を組み込んだ空間を提案することで、人と農の距離を縮めることを目的とする。

2. 対象地

設計対象地は、東京都調布市深大寺北町の農地とする。対象地の位置する調布市は近年の都市開発により人口が増加している地域であり、市内には農地や市民農園が点在している。市民農園は非常に人気があり、調布市民の農への意欲が高いことが分かる。その一方で、農業経営体数の減少や、農業従事者の高齢化による後継者不足なども進行している。（※2）

3. 方法

最初に、対象地の変遷を、農業利用と、人の流れの観点から調査した。

また、既存の農業公園を調査し、現在の農業公園の運営形態の理解を深めた。

次に、現地調査として、対象農地の利用状況調査、周辺状況調査、周辺住民・対象地内の農業従事者への聞き取り調査を行った。

4. 調査結果と考察

対象地の農業的利用の変遷調査により、対象農地は長期間にわたり（おおむねの農地区画で 100 年程度）、農地として利用されてきたことが分かった。（※3）

この土地が深大寺において、長らく農地として利用されてきたからこそ、これからも農地として利用すべき、という意味で、重要な位置付けを持つことを再認識した。

既存の農業公園の運営・管理形態調査から、既存の農業公園は、農業の仕組みや楽しさを広めることはできても、生活

行動の一部として滞留することがない（例えば、道での立ち話など）という意味で、公園の枠を出ることがなく、生活の中に農業が入り込んだということではないので、本研究の目的である「人」と「農」の間の距離を縮めることには繋がらないと考えた。（※6, 7, 8）

現地調査では、

対象地には、生産緑地地区指定がされている農地と耕作放棄されている場所があること、

生産が盛んな農地では、キャベツや大根、里芋などの野菜や果樹が栽培されており、ビニールハウス内では観賞用のサボテン類が栽培されていること、

耕作放棄されている農地は、所有者の高齢化により、維持管理が出来なくなった。

対象地周辺には老人ホーム、保育園、児童館、図書館などの施設があり、様々な生活の層の人が住んでいること、などが分かった。

以上のことから、対象地は大きすぎる農地であるために、通り抜けることが難しく、周辺の住宅・施設と分断されているという特徴を持ち、本研究の目的に鑑み、この点を、農地面積を保持生かすような提案を行うことが、「人」と「農」の間の距離を縮める上で、重要であると考えた。

5. 提案

以上の調査と考察から、提案では生産が盛んな既存の農地を残しつつ、農地の中に新たな動線を作り出すことにした。

農地であった部分は、農地の面積を極力維持するために、グリッド状に分割し、市民農園として再設定する。市民農園は調布市民に人気であり（※2章）、市民農園の隙間を開かれた空間として扱うことで、農園の中を自由に人が行き交う空間にできると考えた。

これらの操作を中心とした設計によって、本研究の「人」と「農」の距離を縮めるという目的が達成されると考えた。

参考文献

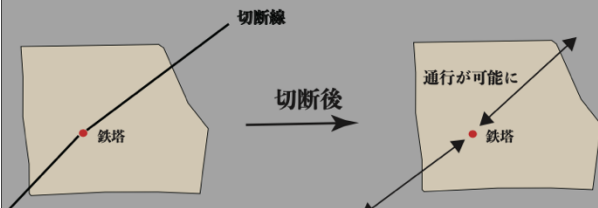
- 1) 農林水産省(2022). 食料・農業・農村白書
- 2) 調布市(2020). 調布市農業振興計画
- 3) 今昔 map on the web
<https://x.gd/i6agL>
- 4) 調布市 HP,
<https://www.city.chofu.tokyo.jp/www/genre/1315443943528/index.html>
- 5) あけほの山農業公園 HP,
<https://www.aikohoyama-nougyoukouen.jp>
- 6) 足立区都市農業公園 HP
<https://www.ces-net.jp/toshino/index.html>
- 7) 三鷹市農業公園 HP
https://www.city.mitaka.lg.jp/c_service/040/040660.html



対象地の分断と再編成

鉄塔を軸に対象地を切断し、新たに動線を作り出した。鉄塔を軸に切断することで、調布駅方面に一本の大きな道が出来る。

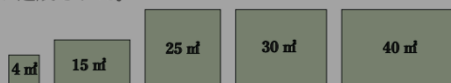
分断前は通行が不可能だった対象地が、新たに動線を設定することで通行が可能になり、利便性が増した。



市民農園

分断した対象地内部に 25cm グリッドを用いて市民農園を再編成した。市民農園には 4 m²、15 m²、25 m²、30 m²、40 m² の 4 種類のサイズがある。農園のサイズは、調布市内に存在する市民農園を参考にした。複数のサイズがあることで、様々な使い方に対応することができる。

また、通行する人々は農園の間を歩くことになるため、通勤や通学、買い物や遊びなど当たり前の生活の中に農地が存在することになる。この本研究の目的である、「人と農の距離を縮める」ことが達成された。



（市民農園のサイズ比較）

